



特集

トイレは我慢できない 携帯トイレを備えましょう

東日本大震災や能登半島地震などの大災害において、断水・下水管損傷・停電が長期化したことでトイレを使えない状況が長引き、災害時のトイレ環境整備が大きな課題となりました。トイレを我慢しすぎると免疫低下につながり、最悪の場合は災害関連死を招きます。

また、トイレ対策は人間の尊厳にも関わる重要な問題です。

今号では、本市の災害時におけるトイレ対策の取り組みを紹介するとともに、いざという時に役立つ備えについてお伝えします。

問合 危機管理課 ☎ 072 - 423 - 9437 FAX 072 - 423 - 6933



大きな地震が起きたら？

トイレの水は流さない！

断水や下水管の破損などにより、水洗トイレが使用できなくなる場合があります。無理に水を流すと、排泄物が流れずにあふれるおそれがあります。市の広報などにより、下水道を使えることが確認できるまでは、使用しないでください。

マンションなどの共同住宅では、自宅のトイレは流せても、他の部屋のトイレから汚水があふれる可能性があります。使用可否については管理組合などへ確認してください。



能登半島地震で
陥没した下水道管路



でも…トイレは我慢できない…
どうしたらいいの？

水がなくても
使える！

携帯トイレを使おう！

- STEP1** 便器にポリ袋を被せ、便座を閉める
ポリ袋を被せることで、便器内の水で携帯トイレの袋が濡れるのを防ぐ
- STEP2** 便座の上から専用のトイレ袋を設置
便座に直接座らないので、衛生面も安心
- STEP3** 用を足し、凝固剤をいれる
排泄後、トイレ袋に凝固剤を入れる
※凝固剤を入れるタイミングは製品により異なります
- STEP4** 臭いが漏れないよう、トイレ袋を結ぶ
空気が入ると袋が破れやすくなるので、しっかりと空気を抜いてからトイレ袋を結ぶ



携帯トイレは何個必要？

$$\begin{matrix} \text{1人1日} \\ \text{約5~7個} \end{matrix} \times \begin{matrix} \text{人数分} \end{matrix} \times \begin{matrix} \text{7日分} \\ \text{(推奨)} \end{matrix} \\ = 4 \text{ 人家族だと... } \mathbf{196 \text{ 個}} \end{matrix}$$

一緒に備えたい！防災グッズ(トイレ関連)

- ・トイレトーパー
- ・使い捨て手袋やゴミ袋
- ・ヘッドライトやランタン
- ・アルコールティッシュ など



本市の取り組み

現在、本市では、市内の指定避難所 64 カ所に以下の備蓄品の配備を進めています。

携帯トイレ&簡易トイレ

携帯トイレに加え、洋式便器などの設備がない、または不足する場所でも、携帯トイレを使用できる環境を確保するため、簡易トイレも併せて備蓄しています。



自動ラップ式トイレ「ラップポン」

ボタン1つで排泄物を密封個包装でき、特殊な防臭フィルムと熱圧着により、臭いや菌を外に漏らしません。

災害用組立式洋式トイレ「ドント・コイ」

府から配備された災害用トイレです。固液分離方式で、排泄物に含まれる水分のみを分離放出することで、約5,500回の連続使用が可能です。



動画でチェック

携帯トイレやラップポンの使い方、ドント・コイの組み立て動画を市公式Instagramで公開中！万一来に備え、使い方を事前に知っておきましょう！QRコードからご確認ください。



能登半島地震を通して

被災地の避難所運営支援活動で感じたことは、携帯トイレは単なる物資ではなく、被災者の健康と尊厳を守るための重要な備えだということです。

ホームセンターや100円ショップなどでも、店舗によっては取り扱いがあるので、各家庭で携帯トイレの備蓄を強くおすすめします。

そして、平時にできないことは災害時にできません。携帯トイレの使用を一度は練習してみましょう。



避難所運営支援に
参加した本市職員